

生き物の大切さを感じ取り、科学的に思考して行動することができる児童の育成  
第3学年単元「動物のすみかをしらべよう」

神崎市立神崎小学校 教諭 浦郷 正紹

1 本研究の主張点

本授業に取り組むに当たり、身近なところで生き物を探し、知らない生き物に視野を広げていくことを大切にしました。その際、佐賀の風土にふれ、佐賀県への愛着の心や生き物を大切にしようという気持ちをもてるようにしました。

まず、1学期の「しぜんのかんさつをしよう」では、掲示物コーナーの設置に取り組んだ。授業の中で、子どもたちは様々な生き物を見つけてくる。それを写真とともに掲示し、発見者や見つけた場所などを記録して掲示板をいっぱいにした。また、名前の分からない生き物でも、色・形・大きさをもとに名前を特定し、意欲的に活動に取り組めるようにした。昆虫の体のつくりについての学習が終わった1学期後半には、クイズ形式にして、見つけた生き物を昆虫とそれ以外に分ける取り組みを行った。学習進度に応じて、掲示板を変えていくことで、多くの児童が掲示板を見ていた。



夏休みに入る頃に、【数が少なくなった生き物】を紹介し、掲示板に載せた。夏休み中に、数人の子どもは、その生き物を探しながら自然と関わっていた。2学期が始まると、【数が少なくなってきた生き物】の中にあつた「コガタノゲンゴロウ」や「ミズカマキリ」などいくつかの生き物を飼育した。



学習を通して、飼育している生き物を自然にかえすことの大切さに気づかせ、どのような場所にかえせば生きていくことができるのか考えさせた。生き物に愛情をもって関わったり、生態系の維持に配慮したりする自然事象への関心・意欲・態度とともに、生き物が環境と関わって生きているという知識をもとに、科学的に思考して行動することができる児童の育成に試みた。

2 単元計画 (全6時間)

次	時	主な学習活動
1	1	これまでに見つけた生き物について発表しよう。
	2～4	動物のいる場所とようす
	5	生き物について考えよう。(本時)
	6	たしかめよう


3 本時の目標

- ・生き物は、その周辺の環境と関わって生きていることを理解できる。  
(自然事象についての知識・理解)

4 授業の実際

児童の学習活動や主な反応	具体的な指導及び留意点
1 これまで見つけた生き物について発表する。 ・どこにいましたか? ・なぜ、その場所にいたと思いますか?	・見つけた生き物がいた場所を思い出させ、その理由について考えさせる。 ・付け加えて発表できる児童を募り、食べものや隠れる場所、体の色などについて着目できるようにする。



<p>2 学習問題を立て、予想する。</p>	<p style="text-align: center;">さまざまな生き物はどのような場所にいるのだろうか</p>
<p>3 観察すべき場所を考える。(4 観察・実験の構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で考える。</li> <li>・班で考える。</li> </ul>  <p>4 班ごとに生き物の写真を選ばせ、その生き物のすみかについて考える。</p> <p style="text-align: center;">着眼点…食べもの・色・形</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに見つけた生き物を提示し、どうやって見つけたのかを考えさせる。 タマムシ (羽のみ) コガタノゲンゴロウ・ミズカマキリ・アカハライモリ (実物提示)</li> <li>・班の友だちに自分の考えを話し、食べものやかくれる場所について考えながら説明させる。</li> <li>・用意した写真は、どれも児童が見つけていない生き物を用意し、どこを探せば見つかるか考えることができるようにする。 例：ナナフシ・茶色いカマキリ・オケラなど</li> <li>・対象の生き物について図鑑などで調べる必要性があることに気づかせる。図鑑は教室内に置いているので、各自で調べることができるようにする。</li> </ul>
<p>5 班ごとに発表する。</p> <p>6 まとめる。</p> <p>7 生き物と環境について考え、教室にいる生き物をどうすればよいのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するときは、授業の最初に行った発表を思い出させ、食べものや体の色、隠れる場所などを意識して発表させる。</li> <li>・ワークシートに、生き物を探すときには、その生き物の食べものや色・形を参考にして、隠れる場所などを予想して探すと見つけやすいことを記入する。</li> <li>・すみかとなる場所や食べものとなるものについて考えさせ、環境が変わってきたことに気づかせる。また、そんな中でも、希少な生き物を実物で見ることができた理由を考えさせる。</li> </ul>

## 5 考察

3年生の理科は、自然事象について1年を通して扱うものが多い。「しぜんをかんさつしよう」「植物をそだてよう(1)～(4)」「こん虫をそだてよう」「動物のすみかをしらべよう」という単元の流れで、それぞれの単元が密接につながりあっている。そのため、掲示板という年間を通して取り組める方法で、児童が学習したことを意識できるようにした。

自分たちで発見した生き物が掲示されることに児童は大きな関心をもち、毎日、多くの生き物の発見報告がよせられた。その際、発見した場所や色・形・大きさなどを発見カードに書くことができるようにしたこと、最後の自然事象を扱う単元である「動物のすみかをしらべよう」では、多くの児童が『すみか』に『食べもの』や『隠れる場所』などが関係しているということ結び付けて考えることができるようになっていた。また、佐賀県には珍しい生き物がたくさんいることを紹介することで、環境を大切にするといい気持ちをもたせることができた。タマムシの提示の際は、生きたものを発見できなかった代わりに、見つけた羽だけを掲示したことで、より興味・関心をもたせることにも成功したと感じている。

「動物のすみかをしらべよう」の単元の最後に、飼育している生き物を自然にかえすという分かりやすい目的を設定したことで、これまで学習してきたことをもとに考える児童の姿があった。食べものがあることや隠れる場所があるといった条件を理由に交えながら発表する児童を見て、環境について科学的に思考する素地が育ってきたと感じることができた。